

---

# 前世を知る者

華鈴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

前世を知る者

### 【Nコード】

N6474A

### 【作者名】

華鈴

### 【あらすじ】

この物語は、高校生が夢で自分達の前世を知り、その前世でなし得なかった使命を現世で晴らすというものです。高校生は『天使』という種類で、前世では人間達を守り人間達の平和の象徴でもありました。それが人間に転生することになったのは『悪魔』と人間を管理する権利を奪い合いになり闘いが始まってしまったのが原因で、覚醒した高校生はこの闘いを終わらせる為に闘い始めます。

## 第1話 気付いた？

この物語は人間：それもまだ歳の若い高校生が自分自身の前世を知るといふ物です。

しかし、それだけでは済まなかったのです。高校生は前世で闘いの使命を残したまま、転生してしまったのでした。

これは、そんな高校生が闘いの使命を終えるまでを描いた小説です。

時は19xx年、登場人物達は、古い文献が積み重ねられた狭い部屋に居ました。

その部屋は、桐沢 鈴 が使っている部屋でした。

鈴のまわりには同級生の 杉谷 真希 と 山実 馨（男）と 山実 謙吾が居ました。

「鈴、今日はどうして部屋に呼んだんだ？いつもなら居間に呼んでくれるのに…」

「夢にある文献が現れてね、妙な事を言ったの。【君達の前世を知りたまえ、そして前世でのやり残しを果たせ】と…」

「前世だつて？そんなもんわかる訳ねえじゃんか！」

「まあ馨…抑えて…鈴が言ったんじゃないんだから」

「謙吾はどう思う？」

無口であり会話に入ってこなかった謙吾に鈴が質問した。

すると無口な謙吾の口から意外な言葉を聞いた。

「俺…夢で天使になった夢を見たんだ…でもな、ただの夢じゃないんだよ。その夢には鈴も馨も真希も居たんだ。姿形も同じで翼を背に持っていた。そして、何より、その夢の出来事をうつすら覚えているんだよ…」

謙吾の話に驚きを隠せなかった真希と馨。

しかし真希と馨も同じような夢を見ていて、それにも驚いたのだ。

## 第2話 鈴の覚醒

「謙吾の話と鈴の話、そして俺達の話。めっちゃ一致してねえか？」

「私達、前世で何かやり忘れたからこうして夢に見るんじゃない？だから…前世の魂に会えば良いんだよ！」

「鈴、そうは言うけどそう簡単には魂には会えないぜ？どうするんだ？」

「馨は痛いところ突くね…でも、私が言い出したのには理由があるんだ。」

「理由？」

「この文献の中にこの街の伝承を記した物があつて、そこには魂に会える呪文も載ってたのを覚えてるの。だからみんなで探してもらおうと思つてこっちの私の部屋に集まつてもらつたのよ。」

「そういう事か。わかった、それらしい文献をみんなで手分けして探そうぜ。」

「そうだな…」

鈴・謙吾・馨・真希は鈴の狭い部屋に山積みになされた文献をあさり、鈴の言う文献を探した。しかし、鈴の部屋には数百の文献が積み重ねられて何処に何が積まれてるのか鈴本人も正確な場所はわからないのである。数時間かけて鈴が言っていた、伝承についてまとめられた文献を探し出した。

「良かった、ここにあつたんだ…」

「これに魂に会えるって呪文が載ってるのか？」

「そうだよ。古代語だから私が唱えるね。」

『天使の魂を宿し者よ…』

ファ…

鈴の体のまわりから突然風が吹き出した。

『前世で何かやり忘れたから者よ。現代に蘇り前世でのやり残しを晴らせ。覚醒』

鈴達の足元には古代語で書かれた魔法陣が現れていた。その魔法陣は光を放ち、鈴達を包みこんでいった。

【鈴…話を聞いて？】

「貴方は誰…私に良く似てるわ…」

【私は前世の貴方、時間が無いから手短に話すわね。私は人間達の成長を見守ってきたの。人間達の平和の象徴となっていた天使なのでも突然、悪魔が現れてね人間を管理する権利を奪い合いになり闘いになったの。でも悪魔が強くて封印するのがやっとだったの…しかし今、悪魔の封印は解けつつあるの。だから貴方達には悪魔と闘ってもらいたいの。】

「わかったわ。」

【物わかりの早い子ね…】

鈴は素直に魂を受け入れた。これから始まる闘いの日々を想像もせず…

### 第3話 謙吾の覚醒

鈴同様に謙吾も前世の魂と会っていた。

【謙吾：】

「鈴姫様の側近だよね？ 鈴姫様を悪魔から守って天使界に平和をもたらせば良いんでしょう？ 弟の誓と一緒に。」

【その通り。良くわかった子で助かった。君には前世からのドラゴンが継承されている。いざというときは姫様を守る為にドラゴンの力を解放しドラゴンと同化すると良い。ただしドラゴンと同化すると天使の姿には戻れないかもしれない。それを心得ていてくれ。】  
「わかつている。君は以前、闘いで鈴姫様を守ろうとしてドラゴンと同化した。そして鈴姫様への攻撃を体で受けた為に命を落としたのだろうか？」

【どうしてそこまで記憶に残っているんだ？】

「俺の体にも、その頃の爪痕が生まれつきの痣として残っている。だから君の話を聞いて確信が持てたんだ。」

【なるほど、それでか。記憶が残っていたのかとヒヤヒヤしたが早合点だったようだね…】

「そのようだね。さあ同化しよう。そうすれば、全てははつきりするんだから。」

【わかった。】

謙吾は魂と十分に話して、魂と同化を始めた。謙吾も鈴と同じく独自に古文書や文献を読んでいたので、全てを理解するのは早いものだった。しかし、謙吾の記憶には忌まわしい、天使の中でも起きてはならない事件の記憶がありした。

それに気付いた魂は、記憶を削除しようとした。

しかし魂のそんな行動も謙吾の強い意思の前では無力でした。

謙吾はその記憶を天使界で語り継ぐつもりでいました。

その事件の話はいつかまた謙吾の口から語られることでしょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6474a/>

---

前世を知る者

2010年11月19日17時50分発行